第 2019-30 号

恵みと真理のニュース

2019 年 07 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

神様は私を光の子供として生まれ変わるようにしてくださり、光の子供のように真面目と義と真実を求めて生きるようにしてくださり感謝します

私は母が私を妊娠した時から恵みと真理教会のアンヤン聖殿をはじめ、幼稚園の頃はアンジュン聖殿、小学校４年生からは今までシフン聖殿で神様が礼拝する生活をしている青年です。青少年の頃から私はイエス様の恵みと神様の愛に深い悟りを体験もなく母と姉をついて教会に行って礼拝を捧げました。中高生の頃は聖歌隊で奉仕もしましたが、救いを受けた感激と喜びもなく形式的で礼拝して奉仕しました。高校２年生の時は芸術高校に編入した後、従業と練習を言い訳して礼拝をおろそかにしました。
大学入試が近づいたとき、大学に行けるように神様に祈りました。しかし、進学が私の心のようにやさしくなかったです。進学しようとした目標を低くして随時選考して二つの大学に志願しましたが、落ちました。私は落胆しました。家族の慰めもあったにもかかわらず挫折感と喪失感によって自信はなくしました。一つの心で私を応援してくれた家族にも申し訳ないし面目がなかったです。
だから切ない心で神様に祈りました。“神様、私は大学だけ行けるようにしてください。家族たちが傷を受けないようにしてください。”と祈りました。すると神様が私をかわいそうに思って摂理してくださいました。仕方なくその後、受けた普通の試験でしたが、目標だった大学より良い大学に合格思案した。神様の恵みで良い結果になったのです。しかし、大学に入学して生活しながら神様に感謝する心はなくなり切ない心で神様に叫びながら祈った私の姿はなくなりました。
大学１年生の夏、親は心に傷がある4ヶ月になった子を養子にしました。誰よりも父が一番願って、私に尊い弟が出来ましたが、その代わりに主日礼拝に行くのが難しくなりました。主日は父も会社に出勤して姉は海外で大学生活をしていたから母と私の中で一人が弟の面倒を見なければならなかったです。 その当時、母と私は聖歌隊で共に奉仕していました。 賛美のタレントがある母が続いて聖歌隊で献身するのが良いと思いました。それで主日は私が弟の面倒をみてその故に教会に行けない日が多くなりました。
翌年の夏に生まれたばかりの一か月も経ってない赤ちゃんをまた、養子にしました。私は末弟が４歳になった年まで弟達の面倒を見るのを言い訳をして主日礼拝を守らなかったです。良いことをするのだから神様が理解してくださると思い自己合理化をしました。礼拝をおろそかにして私の英知だけ頼ってすべての事を自分の思い通りにしました。心が鈍くなり、神様が喜ばない行動をしながらも罪意識も持ってなかったです。
大学を卒業しながら専攻科目の学問的な知識を広げるため大学院にすぐ入学しました。どころが、大学１学期を終えて２学期を控えた夏の休みの時、今までは繁盛した父の事業が急に破産しました。その事によって家族皆が大きく苦しむようになりました。昼も夜も玄関のベルが鳴り、扉をたたく音がして家を探してきた人々の 暴言が続きました。上の家で鳴るベルも心臓が時々して不安になりました。 一日も平安な心で外出できなくて寝れなくて怖れる心で過ごすある日、机の中にあった日記を見つけて取り出したら一番前に書いてあった聖句が目に入りました。“恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。”（イザヤ書４１章１０節）の御言葉でした。
私は白い紙にこの御言葉を書き写しました。そして、台所の壁にその聖句を書いてベルをなる時ことに覚えて神様に祈りました。その間、父は体が弱くなりました。
今まで私は大学院で奨学金をもらって勉強しながら指導教授と他の先生達と友達の関係がよくなりました。ところがこの時期にかてて加えて、誤解、嫉妬、妬みなどによって関係がだんだん遠くなりました。授業時間に主の祈りをしなさいとキリスト教を批判する教授、マルクスとレニン主義の間違った思想と理念を教えようとする教授、会食する日になるとわざと酒を勧めて外見に関する侮辱する先輩たちによって学校生活も心が楽ではなくて苦しかったです。その当時、もっと苦しくて大変だったのはこのような苦難と迫害がなぜできたのか私が悟らなくて対処する方法をよく知らなかったからです。
家族のすべてが大変な状況だから誰にも痛い私の心を話せることが出来なくて神様に叫び祈りました。神様の助けを求めながら祈りました。夜には学校の近くにある教会に行って祈り会に参席して祈りをすると今まで我慢していた涙が出ました。神様に心を打ち明けて祈ったら神様が下さる慰めと平安で心が楽になりました。それから、一週間になる前、青年奉仕宣教会での集まりと活動に参与を進めるメールが来ました。ちょうど祈りに渇いて霊的に疲れていたのでそのメールがうれしくて感謝でした。
青年の集まりに熱心に参与して御言葉の恵みを愛し心を尽くして主日礼拝を捧げました。すると、聖霊様が私の心を感動させて平日礼拝も必ず捧げる願いも与えてくださいました。はじめは金曜礼拝に参席したとき、当会長の牧師が説教した御言葉は“いかに幸いなことか／神に逆らう者の計らいに従って歩まず／罪ある者の道にとどまらず／傲慢な者と共に座らず”（詩編１編　御言葉でした。）説教御言葉を聞き家に戻って来て深い夜に御言葉を黙想するときには言葉で表現できないほどの罪責感に涙をながし悔い改める祈りを捧げました。
その時からどこでも真実な神様のお働き者たちに出会って神様をもっと考えていつでも神様に感謝するようになりました。家を出ると挨拶をする警備員、論文完成と学期を終える前まで友達になってくれた学校の図書館の前のカフェ車のおじさん、聖徒である学校の周りの飲食店の社長達と共に祈ってくださると応援する友達まで私の周りにありがたい人々が多いということを知るようになりました。

初めは息をすることだけでも罪を犯している感じでした。苦しくて神様に申し訳ないし、祈る時ことに限りない涙だけ流しました。熱心に礼拝を捧げて祈りをする中で神様が私を長くお待ちになったことを悟りました。神様の限りない愛と慈しみを悟りました。神様にもっと捧げたくて献身したい心で計画したことを後にして、中高等部の修練会で補助教師として参席しました。子供たちの姿を通して私の青少年の頃を顧みることが出来ました。過去の私の姿と違って主の手を強く握って進んで行く子供達の一人一人がまことに尊く思いました。子供たちのため祈って奉仕する中で大きい恵みと感動を受けて私の信仰は励ましを受けました。
私の中高等部の頃、先生だった方達を再び出会って共に祈って奉仕するようになりました。先生たちの目を避けて大聖殿の端っこに座っていたことが思い出してネズミの穴があったらそこにも私を隠したかったこともありました。しかし、時間が経つほど先生の熱情と愛に感動され見習うようになりました。尊い仕える職分をくださった神様に感謝して全て主に栄光を捧げたい心なので今も努力しています。
神様は私にまことの謙遜と温柔が何か悟るようにしてくださいました。心を尽くして神様を信頼して御言葉と聖霊の導かれてイエス様と共に行くこと、休まずに祈る事、心の中から真に出る感謝で神様に礼拝することが謙遜であることを悟りました。神様から真面目と忠誠の意味も教えてくださいました。私は中高等部で役員クラスを任されて役員学生たちを指導しながら共に恵みある礼拝と行事のため奉仕しています。そして、青年奉仕宣教会の青年達と共に大聖殿で主日１１時礼拝の礼拝の前に賛美を導いています。主日は教会でまだ、二人の幼い弟たちの面倒を見ながらその以外の様々な奉仕をするためとても忙しいですが少しも大変ではありません。神様に感謝する心で楽しく職分を担っています。
教会の様々なプログラムと青年奉仕宣教会の集まりと活動に積極的に参与して正しい国家観と信仰観を持つようにしてくださり、光の子供のように生きるため助けてくださる神様の恵みにも感謝捧げます。国と教会のため、家族のため救いの確信がない友達のため今も続けて祈ったら答えてくださった神様に感謝します。
恵みある説教の御言葉と私と青年達と共に良い御言葉で励まして祈りと祝福をしてくださった牧師の愛と面倒見てくださって感謝します。
神様は私のため予備したすべての物を神様の時にいずれも収めることにしてくださると信じます。
神様。

[信仰コラム]　挑戦に応戦しなさい

＂エフライムの人々は武装し，弓を携えたが，戦いの日に引き返した．．．＂（詩編 78:9～11）

兵士は戦争の日に戦うため教育と訓練を受けた人です。しかし実際に戦争が起きた時、武装した兵士が戦線で引き返したら指弾を受けるのが当然です。本文に＂エフライムの人々は武装し，弓を携えたが，戦いの日に引き返した＂と記録されました。エフライム子孫達勇猛な人物であるヨシュアを祖先にしています。兵器を携えて弓を持ったエフライム子孫だとしたら戦争の日に当然に戦って勝利を得るべきであるが、却って引き返した理由が本文に記録されています。
戦争の日に引き返した原因の中で第一は、彼らが神様の言約を守らず、主の律法に従うのを拒んだからだとしました。
神様は人々の救いと幸福のためたくさんの言約と律法、言い換えて約束と命令をくださいました。神様がくださった約束と命令が自分に実際化されて体験化されるためにはその約束と命令を信じて従わなければなりません。神様の約束が実際的な体験になるようにした人の見本としてギデオンを挙げることができます。天使を通じてくださったしるしと羊の毛で試したしるしによって神様の思いを確信したギデオンは＂私が必ずあなたと共にいるので、あなたはミデアンを一人を打つようにするでしょう＂と言われた神様の言約を握って戦いに出ました。３百人の勇士を連れてイナゴの群れのように数多いミデアンの人々を打って勝利を得ました。
皆さんは艱難と逼迫と誘惑を恐れないでください。後ろに引き返さず前進して戦ってください。神様の言約に頼って戦ってください。神様の命令に従って行いで戦ってください。そうして戦いでの勝利が与える多用な戦利品を獲得することを祝福します。
戦争の日に引き返した原因の中で第二は、彼らがエホバの行われたことと彼らに見せてくださったしるしを忘れたとしました。
神様が行われた奇跡としるしをイスラエル子孫達より多く経験した民族はないでしょう。エジプト王の虐政で苦しまれたイスラエルの子孫達が神様に叫ぶと神様がモ-セを彼らの指導者としてお送り、紆余曲折の末にイスラエルの子孫達はエジプト人々に堂々たるに金や銀の飾りを受けてエジプトを離れました。モ-セが神様の指示通りに行ってイスラエルの子孫達は無事に紅海を渡り、エジプトの軍隊は全て水葬されました。昼夜の気温の差が甚だしい広野で神様が昼には雲の柱で涼しくしてくださり、夜には火の柱で暖かくしてくださいました。糧を得られない広野で神様がくださる奇跡の糧を 40 年間も食べました。広野生活の 40 年間に彼らの衣服がすり着れず、履物が古くならなく、足が腫れ上がりませんでした。万が一、伝染病が発生すると瞬時に多くの人が死ぬしかない劣悪な環境でも神様の治療の恵みを被って奇跡的に健康を維持できました。神様の指示通りに行って難攻不落の城が崩れてエリコを無難に占領する奇異な体験をしながら破竹の勢いでカナンの地を占領しました。
イスラエル子孫達がした事とは、神様が指示なさる通りに行うことと神様が行われる奇跡を目睹して体験することでした。しかし、エフライム子孫達は神様が行われた事と奇跡は全て忘れて当面した問題だけ見たので勇敢に戦うべきの時に、却って引き返してしまいました。私達が忘れるべきことと想起すべきことを分別しなければなりません。悔い改めた罪は忘れるべきです。他人の誤りを許したなら忘れるべきです。先日の悲しくて苦しかったことは忘れるべきです。ただ、それによる教訓は心に刻んでおく必要があります。私達が常に想起すべきことは神様が行われた事事と奇跡です。
私達が生きていくこの世では私達の信仰を崩そうと挑戦する様々な問題があります。試しと艱難と逼迫と誘惑があります。恐れることがありません。勝利できる対策があります。神様の言約を固く握ってその命令に従って行動することです。そして神様が行われた事事と奇跡を想起することです。このような対策を持って応戦すると百戦百勝します。そうして神様の光栄を表わして他の聖徒達に模範を見せるようになります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

異なるイエス、違った霊、違った福音

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

心イエス、霊、福音これらの 3 つの単語に対して正しい知識を持つことは、救いを得るために必ずあるべきです。それだけに悪魔は、この単語のに対して、人々が正しい知識と信仰を持たないように全力を傾けています。今日の本文は、使徒パウロがコリントの信徒たちに向かって責めて警戒している言葉です。**「もしある 人が きて， わたしたちが 宣べ 傳えもしなかった ような 異なる イエス を 宣べ 傳え， あるいは， あなたがたが 受けたことのない 違った 霊を 受け， あるいは， 受けいれたことのない 違った 福音を 聞く 場合に， あなたがたはよくもそれを 忍んでいる」（ コリント人への第二の手紙 11：4）と**しました。ここでは、警戒しなければならないものを明示されています。「異なる イエス ’’違った 霊」「違った 福音」です。これについて詳しく見てみましょう。

まず、「異なる イエス 」について見てみましょう。

「異なる イエス 」と聖書に記録されたイエスの弟子たち伝播するイエスではなく、歪曲されたイエスを指すことです。その種類はいろいろあります。

第一は、イエスを歴史上実在の人物ではなく、神話や伝説に属する人物と言う人々があります。イエスは今から 2 千年以上の前に聖母マリアの体に聖霊によって生まれ出されて人で来られた神様の独り子であります。イエスは 33 年間、この地で活動しました。これらの事実を否定したり、歪曲されることを教える者言うイエスは、聖書の通りのイエスではなく、「異なる イエス 」です。

第二には、イエスを歴史上の実在の人物であると認めながらも、ただ宗教的に顕著な位に過ぎない神の独り子ではないと言った、人があります。ヨハネによる福音書 1 章に明らかになることを**「初めに 言があった． 言は 神と 共にあった． 言は 神であった」（ヨハネによる福音書 1：1）、「そして 言は 肉体となり，わたしたちのうちに 宿った． わたしたちはその 榮光を 見た． それは 父のひとり 子としての 榮光であって， めぐみとまことに満ちていた． 」（ヨハネによる福音書 1:14）**しました。イエスだけ優れた人ほど知っている人が認識しているイエスは「異なる イエス 」です。

第三には、イエスを指し、実際に肉体を持ったのではなく、神が人に幻を見るようにしたと言う人がいます。イエスは肉体をきってこの世の中へ来られた苦しみ受けて、十字架につけられ死なれた神の独り子であら。この別の方法で考えている人が言うイエスは「異なる イエス 」です。

第四は、イエスがつけられて死なれたことは事実だが、復活しなかったと主張する人がいます。イエスは嘘死の形態で葬られたが覚ます後墓を脱出したと言う者がいます。

イエスは手と足に十字架につけられ高くかかられました。イエスの死を兵士が確認してわき腹を矛に突きさすと、水と血をすべて注ぎました。遺体が 細麻布に包まれ、墓に葬られました。墓の入り口をどっしりした石防ぎ置い封印した後、警備兵が守りました。だからたとえ気絶したが目が覚めたとしても、体を縛った細麻布を緩め起き石門を押し警備兵と戦って脱出するということはありえないことです。
弟子たちが体を移し隠しておい、イエスが復活したというデマを広めたと主張する人がいます。弟子たち、これらの嘘を伝えるためにあらゆる迫害を受けて殉教までなさるということはあり得ないことです。
イエスは神の子であり、肉でこの世に来られ生きて十字架につけられ死なれました。そして葬られてから三日目によみがえられました。これと異なり考える人々が言うイエスは「異なる イエス 」です。

次は、「違った 霊」について見てみましょう。

聖霊は、神の霊であり、真理の霊です。聖霊様は、私たちをイエスのもとに導いてくださいます。このため、未信者を非難されます。イエスが言われた **「それがきたら， 罪と 義とさばきとについて， 世の 人の 目を 開くであろう． 罪についてと 言ったのは， 彼らがわたしを 信じないからである． 義についてと言ったのは， わたしが 父のみもとに 行き，あなたがたは， もはやわたしを 見なくなるからである． さばきについてと 言ったのは，この 世の 君がさばかれるからである」（ ヨハネによる福音書 16：8~11）**しました。聖霊様は、人々にイエス様を信じていないことが罪であることを知るようにしていただきます。
聖霊は、人々にイエス・キリストを信じるすべての者は罪の赦しを受けて義とされるというこの驚くべき恵みと真理を知るようにしてくださいます。そして、イエスの死と復活を通して悪魔が審判を受けたという事実も知るようにしていただきます。エペソ人への手紙 1 章に記録されることを**「どうか， わたしたちの 主 イエス ・ キリスト の 神， 榮光の 父が， 知恵と 啓示との 霊をあなたがたに 賜わって神を 認めさせ， あなたがたの 心の 目を 明らかにして 下さるように， そして， あなたがたが 神に 召されていだいている 望みがどんなものであるか， 聖徒たちがつぐべき 神の 国がいかに 榮光に 富んだものであるか，また， 神の 力強い 活動によって 強く 力が，わたしたち 信じる 者にとっていかに 絶大なものであるかを， あなたがたが 知るに 至るように， と 祈っている．」（エペソ人への手紙 1：17~19）**しました。ここでは、「知恵と啓示の精神」と翻訳されたこれは「知恵と啓示の霊」を指します。知恵と啓示の霊である聖霊様は、私たちが神を知るようにいただき、神が私たちに恵みとして下さったものは何なのか分かるようにしてくださいます。
聖書の御言葉を歪曲して言う者の中には「違った 霊」が活動しています。唯物論と無神論に基づいた共産主義をかばう者の中には「違った霊」が活動しています。同性愛は神の創造の秩序を排撃する犯罪行為です。同性愛をかばう者には「違った 霊」が活動しています。教会を世俗化する者は、「違った 霊」が活動しています。「違った 霊」は、偽りと悪と不義を行うようにします。このようなことを行う者側に加担したり、肩を持つ者は、「違った 霊」を受けた人です。「違った 霊」による教えを伝える者を排撃しなければなりません。

最後に、「違った 福音」について見てみましょう。

律法を守らなければ救いを受けないという教えは「違った 福音」です。イエスは「私は道であり。」「私よらなければ、だれも父のみもとに来ない。」と言われました。律法を守っても、道を拭い義とされる教えは「違った 福音」です。救い受ければイエス・キリストを信じなければならないが、信じ後は、律法の行為にその信仰を補強しなければならないという教えは「違った 福音」です。
ある人の教えはイエス・キリストを信じる者は救われたから以降は、どのように生きても問題ではないと言います。したがって、これ以上の悔い改めをしてはならないと言う者もいます。これは「違った 福音」です。イエス・キリストを信じて受け入れることが救いを得る悔い改めです。聖徒たちが日々悔い改めは救いを得るためのものではなく、救われた人らしく生きるために悔い、神の助けを求める悔い改めです。イエス・キリストを信じる救われた以降は、どのように生きてもいいという教えは「違った福音」です。
聖書の中には、神の言葉が一部あるが、聖書全体がインスピレーションされた神の言葉ではないという主張する人がいます。この教えは「違った 福音」です。次に、どの部分がインスピレーションされた部分であることを判断する基準は何であり、それを判断する資格者は誰ですか？このような誤った観念を持てば、聖書を勝手に解釈して判断します。イエスのほか救世主がある。どんな宗教を信じても、救いを得る教えは「違った 福音」です。神のひとり子イエス以外誰も贖い者になる資格がありません。イエス・キリストの神のほかに神はありません。彼らは信じて神は人間の想像の中にあるだけで存在していません。
神は愛と義が均等であります。神の正義のは、罪に対して厳しく処罰を下します。したがって、罪人になった人生は、神がもたらす刑罰を受けて地獄に行くしかありません。愛が至極の神は、罪人を救うためひとり子イエスをこの世に送くられました。罪のないイエスが私たちの罪を代わりに担当して、私たちが受ける罰と裁きを代わりに受けました。そして、イエス様を信じる者に罪の赦しを受けて、神の義を与えられ、永遠の命を得ました。これがあがないの恵みと真理です。このあがないの恵み以外の人間が救われる道は全くありません。したがって、あがないの恵みと無関係の教えは、「違った 福音」です。

聖書に明らかに啓示されているイエスではなく、「異なる イエス 」を伝える者たちを警戒して排撃するべきです。聖書の御言葉を歪曲して、教会に世俗をもってくるのであり、聖書に適わない思想と悪と不義と偽りをかばう人は「違った 霊」を受けた人です。このような人を追従しないようにしなければなりません。あがないの真理とは無関係なのは、福音ではありません。「違った 福音」です。これを断固として退けなければなりません。**「異なる イエス」「違った 霊」「違った 福音」**を伝えたり受けたり者を容認しないでください。このような人と妥協しないでください。皆さんは、聖書に啓示されたイエス様だけを信じて、聖霊様の導きを受け、あがないを信じることに草地一貫して不動の姿勢を願います。